

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成22年10月15日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702818		
法人名	株式会社 シダー		
事業所名	あおぞらの里 グループホーム黒崎	ユニット名	
所在地	福岡県北九州市八幡西区黒崎4丁目4-8 レーベント黒崎		
自己評価作成日	平成22年8月19日	評価結果市町村受理日	平成22年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F
訪問調査日	平成22年9月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 毎月1回、写真入りのお便りと近況の報告のお手紙をご家族へ送ることで利用者が日々どんな暮らしを送られているのかをお伝えしています。交通の便が良いためご家族の面会も多いので、職員はご家族とのコミュニケーションを大切にし、本人のニーズやケアと一緒に考えられるよう努めています。2. できるだけ長く元気に過ごしてもらえるように、自立支援を目指しています。生活の中で出来ること、手伝ってほしいことをしっかりと見極めながらリハビリを取り入れていくことで、歩行を維持してもらう(ホーム内では車イスの使用頻度を減らす)トイレでの排泄を続けてもらう(日中は布パンツの利用)などが出来るよう支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年に開設された「あおぞらの里グループホーム黒崎」は、JR黒崎駅から歩いて5分の場所にある。代表は、病院でリハビリを受けて回復された方が、退院後、状態の悪化に伴い再入院される状況を見てきて、退院後も引き続き、在宅でリハビリが受けられないかと考え、リハビリに重点を置いたデイサービスを開設されるなど、積極的に介護予防に取り組んでこられた。グループホームにおいても、生活リハビリを積極的に取り入れた支援が行われており、できる限り車椅子を使用せずに、どんなに時間がかかっても、職員がご利用者を支えてホーム内を移動したり、起床時にマッサージを行うなどの支援が行われている。ご利用者の平均年齢も高く、平均要介護度が4という状況の中、車椅子の方と一緒にごみ出しを行うなど、ご本人ができることはご本人に行って頂けるような支援が、職員全員で続けられている。ご利用者の自立支援を目指しながら、楽しく一日を過ごして頂けるよう、日々努力を続けているホームである。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも目に入る場所に掲示しており、勉強会などでは自分たちのケアを振り返るようにしています。	ご利用者一人ひとり育ってきた環境が違い、その方に合わせたケアが実践できるよう、ご利用者に寄り添いながら、楽しく一日を過ごして頂きたいという思いが理念に込められている。ご家族の協力のもと、ご本人希望のお墓参りを実現したり、交流会を通して、ご家族や地域の方と楽しい時間を過ごして頂くなど、暮らしやすい環境を提供できるような取り組みが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域の行事等に参加して交流しています。日常では商店街に買い物へ行ったり、公園へ散歩へ行ったりする事でご近所の方とも交流に努めていますがまだまだだと思います。	地域で行われる宿場祭りや黒崎祇園祭りの他、市主催の MoriForum などに参加したり、年長者ふれあい交歓会や町内の敬老会等に参加している。併設のデイサービスで行われる、ボランティアによる大正琴の演奏会にも参加させて頂き、デイサービスのご利用者との交流も図られている。	町内の特定の方々だけでなく、より多くの方々に気軽にホームを訪れて頂ける様に、地域のボランティアの方々の訪問を検討している。また、保育園や学童の子供達との交流も図っていきたいと考えられている。より多くの方々との交流が図られることを期待していきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流会の中に勉強会の機会をつくったり、一緒に接してもらうことで伝えています。多くの方へ認知症の理解を広めたり、認知症サポーター養成講座が開くことができると思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の参加も多く、その時々で必要な報告を行っています。意見が出にくいのでアンケートなどもとるようにしていますが、もっともっと気軽に意見交換のできる場にしていきたいと思っています。	2ヶ月に1回、ご利用者、ご家族、地域代表の方、地域包括支援センターの方々等が参加して会議を行っている。家族交流会も同時開催されており、参加者と一緒に食事を作ったり、成年後見制度や感染症等についての勉強会を行うなど、有意義な会議となっている。議事録もわかりやすく、議論されている内容が詳細に残されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員さんとは意見交換できる関係ができてきていますが、市町村へは個別に報告や相談は出来ていないので今後取り組んでいきたいと思っています。	運営推進会議の内容や進め方、構成メンバー等について、市の担当者に伺ったり、災害や火災の協力体制について、他のホームではどのような体制を整えているのかなど相談し、助言を頂いている。年1回行われる、グループホーム協議会主催の意見交換会に市の担当者も出席されており、交流が図られている。	今後は、ボランティアの方々との交流を希望されており、市の担当者に相談をしながら、紹介して頂けたらと考えている。更なる取り組みに期待していきたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会で周知するとともにカンファレンスや引継ぎの際にも利用者の状態の把握を共通認識にし、ケアの方法も検討しています。	ベットからの転落防止のため、ベットの四方を壁や柵で囲んでいたが、ご家族にもリスクを理解頂きながら、転落防止のための検討を続け、夜勤を2名体制にしたり、鈴やセンサー、見守りの仕方などを試す方法を続けた結果、柵の一部撤去が実現できた。今後も、身体拘束をしないケアを目指し、取り組みを続けていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催し、職員へ周知しています。会議等で自分たちの日ごろの言動行動を振り返るようにしています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員への理解、ご家族への紹介を目的とし、運営推進会議でお話する機会を作りました。手続きを検討しているご家族もおられたので、必要に応じて援助していきます。	管理者が外部研修を受講し、運営推進会議の場にて、研修で頂いたパンフレットを活用して、ご家族や職員に制度の説明が行われた。個々の必要性に関しても随時検討しており、必要に応じて、ご家族に対して個別に公証役場を紹介するなどの支援が行われている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前や入居時に契約についての説明する時間を利用者やご家族に作っていただいています。変更時は出来るだけ運営推進会議などを利用し皆さんの集まる場で説明を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族等の意見は少ないので、日ごころからのコミュニケーションを密にとることで伝えやすい雰囲気を作るようにしています。外部の相談機関も紹介しています。	毎月のお便りと合わせて、個別のお手紙にて日々の活動や様子を報告している。近況報告には、ご家族の返信欄もあり、ご意見を頂いている。家族アンケートも行っており、介助の方法や食事について等、具体的な項目を挙げて、ご意見やご要望を伺っている。面会でホームを来訪された時には、ご家族の意見を伺うように努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体運営会議や勉強会などで職員からの意見を聞く機会を設けて対応しています。	管理者は、会議や日々の引継ぎ時に、職員の意見を聞いており、ケアに関する意見や休憩時間の取り方、役割分担等についての要望など、職員からの意見は多い。意見を基に、ご利用者の状況や現状を職員と検討した上で、試行期間を設けながら、改善に向けた検討が行われている。和気藹々とした雰囲気の中、意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれにあった役割を持ってもらうことでやりがいや向上心を持ってもらうようにしています。本社でも資格取得のための講座の開催などを行っています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	特に採用条件はありません。職場体験を行い雰囲気や仕事の内容を見てもらい「ここで働きたい」という意思を確認してもらっています。職員にはそれぞれにあった目標や役割を持ってもらっています。	採用にあたっては、係長と管理者が面接を行っている。資格の有無に関わらず、長く働きたいという意思を尊重している。本社にて、資格取得のための勉強会も行われている。職員の年齢層も幅広く、それぞれの年代に応じて、得意な分野で力を発揮して頂いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々のケアの中では助言や注意をしています。市・県主催の研修も開催されているとのことなので参加していく予定です。	接遇研修の他、人権、プライバシー保護のための業務マニュアルに基づき職員教育が行われている。年1回の契約更新時には、ご利用者に対する言葉遣い等、気になる点については個別の指導も行われ、新たな目標設定についての話し合いも行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれにあった研修や勉強会へ参加できるように声をかけています。職員も積極的に参加してくれています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、交流しています。機会はまだまだ少ないですが交代で職員にも勉強会に参加してもらい意見交換を行ってもらっています。		
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人とお会いし、しっかりとお話を聴いたり、表情等にも配慮するようにしています。ホームへ見学に来てもらうなどしてホームへ来られた際に顔見知りがいるとの安心感が得られるよう対応しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学のお誘いをしホームを見ていただいたり、お話を聴き随時対応しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意見を主に入居前に関わりのあったサービスや関係者の方々にも情報をいただき今後の支援について検討し対応しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれのできることに目をむけ、生活動作や家事を一緒に行なうことで出来たことを一緒に喜んだり、教えていただいたり、生活を一緒に楽しむようにしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会も多く協力的。ご家族と一緒に考え支えていけるように相談しています。毎月近況を報告することでご本人のことを知ってもらおうようにしています。返信をいただけるご家族もいます。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと、お墓参りに行ったり、美容室に行ってもらったりしています。併設のデイサービスにお友達のいる方もおられるのでお会いしにっています。	職員は、“ご利用者の思いを大切に”と、田舎の兄弟や友人に年賀状を出したいとのご利用者の声をお聞きし、職員は早速、年賀状書きのお手伝いをしたり、馴染みの商店街へパンを買いに一緒に出かけるなど支援している。町内のお祭りや敬老会への参加などの支援も行われている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時にはクレームや口論もありますが個々を尊重し職員がパイプ役になっています。みんなで楽しむ誕生日会や外出なども企画しています。寂しそうにされたり、お部屋にこもっている方がいないか職員は気をつけています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ転院されている方がいらっしゃるためお見舞いに行ったり、ご家族へ年賀状を送ったりすることで今後の状況を見守っています。		

25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の表情やご家族の情報をもとに本人の意向を探っています。どの職員もができるようにとらえかたや決め付けになっていないかなどみんなで勉強会や検討会をしています。	独自のアセスメントシートを活用して、ご本人の生活歴や趣味、嗜好、性格など、情報収集に努めている。センター方式のシート(私の気持ちシート)に、担当者が聞き取ったことを記入し、会議を通して職員間で情報の共有を図っている。言葉で意思を伝えることが難しい方には、表情やしぐさから本心に伝えたい思いを把握するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族とのコミュニケーションを大切に、情報交換を行っています。特に交流会は職員がお話を聴くとても良い機会になっています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	報告連絡相談の重要性を重視し、職員全体で情報交換したり、その時々でのケアについて話したり、一人ひとりに合わせたケアに努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の希望や心配事をもとに個々にあったケアを検討し介護計画を決めています。主治医の先生や訪問看護師とも相談しながらアドバイスをいただいています。	ホームでの過ごし方や近況をご家族へ報告し、返信用のアンケートを活用し、意見や要望を伺っている。ご家族や主治医等の意見は計画に反映されており、ご本人の力が発揮できるような役割や楽しみが計画に盛り込まれている。また、地域の方々と接する機会を増やす等が計画の中に盛り込まれ、現状に即した見直しも毎月行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に介護計画の日々の評価コメント欄を設け、全員で記入しています。計画の見直しの時にはとても役に立っています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少ないですが臨機応変に対応していけるよう努めています。外出、外泊したくても不安があったりすることもあるので、車の乗り降りのコツを伝えたり、お手伝いすることでご家族との外出の機会も出てきています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加したりしているが、今後は地域ボランティアや消防団、学校などとも関係作りを広げていきたいと思います。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診や受診が受けられ安心できるようにしています。	入居前のかかりつけ医を受診して頂いており、協力医療機関への受診は職員が行っている。緊急の場合は必ずご家族に病院へ来て頂き、一緒に結果を聞くようにしている。ご家族が受診支援される場合は、近況報告のお手紙をご家族にお渡しして、結果を伺っている。医師から返信のお手紙を頂くこともある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月水金の週3回訪問看護師の訪問があり、日々の健康管理や受診のアドバイス、介護計画への助言をもらっています。緊急時には24時間体制のオンラインもつながっています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はその方の生活の状況をタイムリーに伝え、利用者が混乱しないように配慮してもらおうとともに医師、看護師、ご家族とカンファレンスを行い退院後も安心していただけるようアドバイスや意見をいただいています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、看取りを希望された場合の準備はしているが、実際の経験はないため、十分な対応が出来るか不安はあります。ご家族や協力者と細かく話し合いながら対応し、その都度検討していきたいと思います。	ご利用者及びご家族が希望される場合には、可能な限り尊厳と安楽を保ち、安らかな死を迎えられるよう、全人的なケアの提供を行うと共に、医師及び医療機関との連携を図り看取りを行う方針としている。以前、看取りに関するアンケートを行ったが、ご利用者の高齢化に伴い、再度、意向確認のためのアンケートを実施している最中である。日頃から、重度化しないように、生活リハビリを取り入れ、現状維持に努めている。	ホーム開設以来、看取りは行われていない。職員の不安を軽減するためにも、重度化した場合の対応について、勉強会を行うなど、ホームの体制を整えていきたいと考えている。今後の取り組みに期待していきたい。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会にて伝達しています。今年は地域の方やご家族もお誘いして行う予定です。常に急変時チャートを備え落ち着いて対応できるようにしています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マンションのオーナーの協力のもと避難訓練を行い、職員へ対応方法を周知しています。地域との協力体制は十分に築けているとはいえないので今後も声をかけ、広げていきたいと思えます。	年2回、昼夜を想定した訓練を、ご利用者、同ビルのマンションのオーナー、消防署の方と一緒にっており、運営推進会議にて、避難訓練の状況を報告している。会議では、地域連携の必要性について検討が行われている。災害時に備えて、懐中電灯、利用者の緊急連絡先名簿、軍手、ビニールシートなどの備品が準備されている。	飲料水や食料等、災害用の備品として準備したいと考え、本社に相談中であり、返事待ちの状況である。
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろの言動行動や排泄、入浴の介助などに注意を払い、職員全員で自分たちのケアを振り返る機会をつくっています。	職員は、ご利用者一人ひとりの誇りや自尊心を大切に考えられており、言葉かけやケアには気をつけているが、夕方の忙しい時間等、指示的口調になる事がある。管理者は全体ミーティングを行い、ケアを振り返る機会を作り、話し合いが行われている。個人情報の書かれた書類等はロッカーに保管し、取り扱いには十分配慮している。	管理者は、認知症の理解を深める為、勉強会や研修会への参加を継続すると共に、今後も定期的に職員自身の行動を振り返りながら、確認、見直しを行っていきたいと考えられている。ケアの向上を目指し、今後の取り組みに期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を言われる方も少なく、遠慮されることもあるため、伝えやすい環境づくりを目指しています。その方その方で意志表示の方法が異なるので言葉が出ない方は二者択一で質問する、物を見てもらうなど工夫しています。言えない方には表情に配慮し、その方の本当に伝えたいこと、ご希望を考えていくようにしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	表情や状況に合わせてアプローチしています。ご利用者の気分がプラスになるような声かけを工夫したり、お誘いするタイミングなどもみえています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を心まちしている方もおられれば、ご自分の行きつけのお店へご家族と足を運ばれる方もおられます。興味のある方は洋服の話をしたり、マニキュアをぬったりとおしゃれすることもあります。爪きりや髭剃りなどは声をかけ援助しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は仕出しを利用しているが、月に数回は手作りの日を設けご利用者のリクエストにお答えしています。週に1回のおやつ作りは楽しみにされています。	食材の買出しや調理の下ごしらえ、味付けや盛り付けなど、ご利用者と一緒に準備が行われている。運営推進会議後の交流会では、恵方巻きやぬか味噌炊きなど、季節食や郷土食と一緒に手作りされており、会議に参加されている委員の方々と歓談しながら食事をして頂いている。	

自己	外部		自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減(月1回)、排泄状況(毎日)を観察しながら食事量や水分量を検討しています。「お茶ちょうだい」と言われる方が少ないので声をかけ促しています。糖尿病の方もおられるのでご家族と相談して対応方法を決めています。			
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをお勧めしています。ご自分で出来るところはしてもらい、仕上げ、口腔内の点検は職員が行っています。いればの手入れも行っています。			
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便ペースがわかる管理表を検討しながら時間誘導やサインを見逃さないようにすることでできるだけトイレでの排泄が出来るように支援しています。	トイレでの排泄支援が行われており、ホーム独自の排泄表を活用し、ご利用者お一人ひとりの排泄感覚を把握し、個々の目標を設定し、支援が行われている。安全性の為、トイレのドアを開けて介助する時もあるが、他の方に見えないように、カーテンを利用する等、不安や羞恥心への配慮も行われている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤コントロールが必要な方が多いです。お腹のマッサージや体操をしたり、水分摂取を増やしたり、お腹に良い食材を出したりしています。(牛乳、ヨーグルトなど)			
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には決めているが、希望に応じて決めています。体調や気分に応じて変更したり、声かけやタイミング、対応方法を工夫して行っています。	週2回、ご利用者の体調やその日の気分に合わせて、ゆっくり職員と会話を楽しみながら入浴して頂いている。季節に応じて、菖蒲湯や柚子湯も行われ、毎朝全員の清拭も実施されている。入浴を好まれない方には、嫌がられている原因を探り、早めに入浴予定を伝えておく等、個々に応じた対応が取られている。	現在、ご利用者の体力の関係から、週2回以上の入浴を希望されるご利用者はおられないが、体調に合わせて、夜間の入浴や入浴の回数を増やす体制を整えていきたいと管理者は考えられている。希望に添った支援が実施されることを期待していきたい。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には生活の流れは本人の希望に添うようにしています。また昼夜逆転しないよう活動へお誘いしたり、日中は気分を盛り上げ、夜間は安心して休めるように睡眠時間が確保できるようにケアしています。(夜間お薬を使われる方もおられるので医師と相談しながら対応しています)			
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書、アルバムを作成し、誰でも確認がすぐ出来るようにしています。薬の変更や量、使い方などは主治医と相談して行っています。			



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を大切に、なるべく続けていけるようにアプローチしています。ご家族から家では見たことがないと言われることや役割として充実感を得ている方もおられます。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々は受診希望が多いです。その都度対応しています。その他にも広告などを見たり、お話ししながら興味のある場所なども探っています。	森フォーラムやいちご狩り、演歌歌手のコンサート等の外出も楽しまれている。年間行事での外出以外に、通院の帰りにコンビニに立ち寄ったり、近くの公園を散歩する等の支援が行われている。車椅子の方と一緒にゴミ出しに出かけるなど、少しでも、外気に触れる機会も設けられている。生活リハビリに力を入れておられ、歩行訓練を兼ねた散歩を日頃から心がけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方のニーズに応じてお財布を所持してもらっています。(買い物されることはほとんどなく、電話代やお礼、帰宅、受診のために使おうとされることが多いです) 買い物は交通量が多いため付き添うようにしています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望に応じて利用してもらっています。年賀状も出されている方がいます。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に臭いと空調の調節には配慮しています。お花を生けたり、カレンダーを作成したり、玄関にその時期の飾りつけをすることで季節感を味わえるように工夫しています。	玄関には、ご利用者と一緒に作られた夏を感じさせる作品や季節の花が飾られている。リビングのソファも、ご利用者が居心地良く座れるよう配置されており、ゆったりとした空間となっている。リビングのすぐ横にトイレがあるため、入り口にカーテンを取り付けるなどの配慮もされている。また 空気清浄機を設置し、感染防止、消臭対策に気配りがされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルスペースとソファスペースとを作ることで生活に動きを取り入れ、過ごす場所を選べるようにしています。時にはとりあいにもなりますが良い刺激になっています。職員が間に入ることで利用者同士がうまく関係をとることが出来ることも多いです。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	担当職員は整理整頓や衣替えも担当し、ご家族と相談しながら必要なものを揃えたり、好みや使い慣れたものを配置し工夫しています。職員は定期的に居室の掃除を行っています。(利用者と一緒にすることもあります)	ペット、カーテン以外は、ご本人、ご家族と相談し、寝具や枕、チェスト、テレビ、仏壇など自宅で使用している物や馴染みの物を持ち込んで頂いている。配置は、ご本人が居心地良く過ごせるよう工夫されている。ドアの表札は、ご家族と一緒に作られた手作りの表札が掛けられている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
57		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり            建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>生活に動きが出るような環境設定をしています。出来ることを日々アプローチし、一緒に喜んだり、感謝を伝えることでやる気や活気が出てきていると思います。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

